

## 2023 年度日本基督教学会学会賞推薦理由

2023 年9月7日

松谷曄介著『日本の中国占領統治と宗教政策 : 日中キリスト者の協力と抵抗』(2020年、明石書店)の推薦理由

本書は、2012年11月に北九州市立大学に提出された博士論文に基づく著作で、香港、中国、アメリカでの資料調査と研究を踏まえて加筆、修正されて出版された書物である。

本書は、日本による占領統治での中国における、日本の宗教政策の形成過程、その政策実施によって成立した組織の実態、さらにはそれら政策と組織の枠の中で活動したキリスト教指導者の協力と抵抗を描き出すことを目的としている。いわば三方向から重層的に光を当てること、日中戦争下の中国におけるキリスト教界の実態を明らかにし、これまでほとんど研究対象となっていなかった中国キリスト教史の一断面を明らかにした学術書である。特に本書は、1937年から1945年までの時代に研究対象を絞り、地域も華中、華北に限定することで、主題を明確化し、専門性に富む内容となっている。本書は、日本と中国のクリスチャンたちが、「協力と抵抗のはざま」にあって、複雑で多様な在り方をしてきた事実を優れた筆致で描き出している。著者の中国への関心と愛が、本書を貫き、多方面にわたる資料収集の労苦を克服している。一部の史料解釈への疑義もだされたが、最終的には満場一致で、学会賞に推薦する運びとなったことは、大きな喜びである。

日本占領下の中国におけるキリスト教界の実態の探索には、現地調査、資料収集などが不可欠である。著者の優れた行動力と嗅覚とでも言うべき能力と感性が本書には満ちており、中国語の理解とコミュニケーション能力が、本書の独創性と専門性を駆使した研究の構築にいかんなく発揮されている。加えて、日本統治以前からの中国のキリスト教を主導してきたアメリカの教会の視点という、近年日本教会史研究にも用いられている方法が、複合的な視点から取り入れられている点も本書の特質となっている。

序章に続く第一部では、中国占領地域に対してとられた占領政策が、華北と華中に分けて、地域間の差異にも目配りしながら論じられている。第二部では、その宗教政策において設立された「中支宗教大同連盟」「中華基督教団」といった組織と関わった日本と中国の指導者たちの思想と業績が取り上げられ、批判的に考察を加えている。

これらの叙述の中で、いくつか研究成果として特筆すべき諸点を挙げる事ができよう。第一に、占領下の「北支」における宗教政策が陸軍主導によって行われ、英米宣教師を包括する意図を持った「文化(喧伝)」政策であったことを明らかにしている点である。第二に、宗教団体法の成立過程から、在華欧米キリスト教団体と日本のキリスト教団体の差異が明瞭にされている。特に、この法律が、「日本の宗教団体の中国進出を促進する」という中国政策と密接に結びついていたと分析されている。これは、1941年の日本基督教団の成立の経緯についても歴史的評価を下す重要な材料を提供するであろう。第三に、政策意図と実際の組織の乖離を埋めるためにとられた中華基督教団指導者の知恵と行動、とりわけ華北の江長川(こうちょうせん)、華中の繆秋笙(びゅうしゅうせい)の抵抗と協力の在り方なども明らかにしている。

加えて、本書の第三部では、安村三郎、阿部義宗、矢内原忠雄、賀川豊彦という4名の日本人クリスチャンの思想と働きが分析されている。さらに、これまで取り上げられることのなかった楊紹誠(ようしょうせい)に言及し、民族意識や政治的な背景、戦時下の敵対関係を超越して、同信のクリスチャンとして、日本人と交流し、牧師や信徒を守る

ことを優先した人物像と使命感が浮き彫りにされている。敵国日本人にも愛をもって接した楊紹誠の生涯の紹介は、著者ならではの一次史料の探索と読解が可能にしたものであろう。さらなる神学的な分析の深化が求められると言う評価もまた投げかけられたが、このような中国人クリスチャンの存在を明らかにした貢献は少なくない。

本書は、神学的な掘り下げの深化を求める課題を残しつつ、著者独自の資料調査やインタビューといった一次史料に基づき、歴史研究としてとるべき方法を忠実に踏まえている点で、この分野に大きな貢献をなしたことは明白である。二次文献として、今後も長く参照される書物となるであろう。

最後に、一般読者にもわかりやすい工夫がなされている。各章の導入部で、その章のテーマを明示し、小括を挟みながら、論証された内容を逐一整理して議論が進められている。このような着実で、堅実な叙述は、専門家ではない読者にも親切であり、表題の主題を説得的に提示できていると評価される。

以上の理由から、2023 年度日本基督教学会学会賞選考委員会は、本書を第6回学会賞に推薦する次第である。

#### 日本基督教学会学会賞選考委員会

委員長 関川泰寛

委員 飯 謙、釘宮明美、中道基夫、須藤伊知郎、辻 学